



152号

2010/4 /1

日中文化交流市民サークル‘わんりい’  
東京都町田市能ヶ谷町1521-58 田井方  
〒195-0053 TEL&FAX:042-734-5100  
<http://wanli.web.infoseek.co.jp/>  
Eメール:[wanli@jcom.home.ne.jp](mailto:wanli@jcom.home.ne.jp)



丹巴風情節風景・開会式の先頭を行くプラカード(右下の写真も参照ください)

丹巴、2009年10月 撮影:大川健三

‘わんりい’152号の主な目次

北京雑感(43)「困い」 <sup>かこ</sup> .....	2
私の調べた四字熟語(41)「四分五裂」 <sup>しぶんごれつ</sup> .....	3
媛媛讲故事(22)「八仙の伝説Ⅱ」.....	4
アジアを読む(65)「憲法とはなにか」.....	5
台湾の鉄道遺跡と言語.....	6
土の香りのモダンアート・農民画⑧.....	8
ご一緒にいかが? 中国語で歌おう! 会.....	9
4月の歌・「槐花几时开」 <sup>huai hua ji shi kai</sup> .....	9
一緒に考えて! 日本語指導の現場から.....	10
松本杏花さんの俳句集・「余情残心」より.....	11
アフリカとの出会い(41)「叔父さんが…」.....	12
ケニア風・春野菜のシチュウ・レシピ.....	13
スリランカ紹介(37)「スリランカの世界遺産」.....	14
私の四川省 一人旅(34) 亜丁20.....	16
‘わんりい’ 掲示板Ⅰ.....	19
‘わんりい’ 掲示板Ⅱ.....	20



【写真説明】丹巴風情節の祭は、四川省の10大祭の一つといわれ、10年近く前から毎年開催されています。丹巴では、もともと春節など色々な節日に村の人達が寄り集まって開催するお祭があり近年になって加わった新しい祭といえます。上の写真は、丹巴の各地から集まった踊り手達の開会式の演舞。開催地‘丹巴’は中国四川省の風情保護区で、集落全体が保護されUNESCO世界文化遺産にも申請中です。(大川)

●「中国語で歌おう! 会」、4月の案内は9ページです。

遙か上空の衛星から地球を眺めて、識別できる人間の営みの痕跡は万里の長城だけと言われます。確かに、長城を目の当たりにして、堅牢な壁が山を越え、谷を走り何処までも続くスケールの大きさには圧倒されます。と同時に、聳え立つ頂から目もくらむ谷底まで雪崩落ちるように連なる建造物には、造った人々の執念が感じられて、より一層の感動を覚えます。

長城の意義は、場所や時代によって様々に考えられますが、誤解を恐れず、ごく大雑把に言えば、民族の囲いと言えるでしょう。そして、この長城を囲いだと思えば、北京市内のあちこちに規模こそ小さいものの、多くの囲いがあることに気がきます。

初めて北京で暮らした時、街並みが明るいのに妙に閉鎖的な感じを受けました。暫くはその理由が分かりませんでした。やがて納得しました。商店街などで、一棟の建物が終わって路地に続いてそこにはフェンスがあり、門があって建物の裏手には回れないようになっています。一ブロック全体が囲われ、表通りに面した建物の後ろにも建物があるのですが、そこに住む人々は何箇所かにある門から出入りをしています。

友人が住む精華大学の敷地内でも同じで、少し古い5階建てのアパート十数棟の周りをフェンスが取り囲み、そんな囲いが幾つかあって、それぞれ東楼、南楼、中楼とか呼ばれるブロックになっています。門には管理人小屋があり、出入りする人々を監視しています。と言っても、事実上、殆どフリーパスです。然しながら、初めて訪問する人間にはかなり気になるもので、防犯にはある程度役立っていると思われまます。幾つかある門の一つは24時間開いていますが、残りの門は、朝6時から夜10時までしか通れません。友人宅で麻雀をして終了が10時を過ぎると、近くの門を出てすぐの所に住んでいる人でも、反対側の開いている門から出て、ぐるっと回って帰らなければなりません。そんなことを何回か経験すると、安心ではあるけれどちょっと不便だと感じたものです。

もともと北京では、国の機関や、国営の会社等は、事務所と職員の宿舎が隣り合わせでしたから、それぞれが全体を囲って、人の出入りも厳重に監視していたようです。住宅は居住者が所有権を買い取り私有になっているので、定年退職後もそこに住み、子供たちはそこから外の職場へ働きに出たりして、機関に働く人が外から通ってくると言う変則的なことも多いようです。

最近、日本でも報道された、北京市内での強引な立ち退きが問題になっている地域は、大きな機関等の後ろ盾がない一般市民の集合住宅だったのでしょう。そのような

地域でも、もともとは一ブロック全体が塀で囲まれていました。

囲いの内側の状況は様々ですが、北京では、このような囲みを小区と呼んでいます。日本で言えば、自治会でしょう。どういう組織になっているのか、詳しいことは分かりませんが、北京の小区は、日本の自治会等より結びつきが強く、しかも行政に組み込まれていて、それなりの機能を果たしているようです。

今、北京ではマンション建設ブームですが、北京のマンションは、一棟だけ建てるということが殆どありません。高層ビルを同時に6、7棟建て、中心に洒落た庭園を配して高級感を醸し、頑丈な門と囲いを設けて、守衛さんを常駐させて、富裕層向けの高級マンションが出来上がります。

それで、北京の街、特に居住区を歩いていてにわか雨に降られると大変です。ちょっと軒先で雨宿りなどと言うことが出来ません。囲いは、レンガだったり、モルタルだったり、鉄の柵だったりといろいろですが、一ブロックすっかり囲いがあって、中に建物が見えていても、その軒先に走りこむ術がないのです。

北京以外では、一度河北省の承德に出かけた時、やはり囲いが気になりました。承德は皇帝さまの避暑山荘で有名ですが、その山荘も塀で囲われていました。小高い所から遠くに山荘を見下ろすことが出来たのですが、塀の高さは2m足らずですが、瓦をのせた塀が山荘の門から始まって、裏山を登っていくのです。長城と同じように、山の頂から谷底へと続きます。長城の縮図を見ているようで、規模が小さい分、余計に「囲い」建設の意図を感じました。裏山は険しくて、外敵が態々そこから侵入するようにも思えませんし、何と言っても皇帝さまなのですから、その山自体を山荘に取り込めば済むと思うのですが、若しかしたら、塀のある風景に価値があると考えているのかもしれないですね。

もう一つ、塀の話です。精華大学構内の居住区で、新しい食堂・市場の入るビルを建てることになり、そこにあった小喫(軽便な食事所)長屋を取り壊すとすぐに、レンガと漆喰で立派な塀が出来ました。その塀は新しい建物の一部だと思いましたが、大違いでした。何と、その塀は、工事用の囲いだったのです。普通ならトタン板か金網、或いは鋼材をならべて作るフェンスだったのです。当然、工事が済んだら、この塀は跡形も無くなり、随分無駄なことをするとおもったものです。

このような事例を見て、私の偏見に満ちた心は、中国のひとびとは無類の「囲い好き」だと、結論付けました。

# 四分五裂 (しぶんごくれつ)

私が調べた四字熟語 41

三澤 統

昨年の総選挙で民主党が大勝し、政権交代が実現しました。当初は官僚改革や事業仕分けなど活気を帯びた面もあった新政権でしたが、その後政治とカネの問題などで世論調査の度に支持率が下がってきています。

一方野党となった自民党はといえば相変わらず低支持率のままです。それどころか旧閣僚級からは新党を結成するかもしれないなどという人物や離党を表明する人物も現れて自民党が四分五裂しそうな状況になってきました。

今回の四字熟語はその「四分五裂」を取り上げ、その謂れを調べてみました。日中の辞書にはそれぞれ次ぎのように載っています。

▲三省堂現代国語辞典

「四分五裂:ものごとが、ばらばらになること」

▲小学館中日辞典

「四分五裂:(sifēnwūliè)散り散りばらばらになること」

この成語の出典は漢代の劉向が編集した「戦国策<sup>1)</sup>・魏策一」の「此所謂四分五裂之道也」(此れ、いわゆる四分五裂の道理也)の部分です。

中国の戦国時代、七つの国(秦、韓、魏、趙、齊、楚、越 \*図参照)が覇権を争っていました。

七国のうちでは秦国の実力が最強でした。各国の政治家達は、強国、弱国入り乱れての紛争が止みそうのない状況の中で、時機や情勢をみながら、折にふれて互いに情報交換をしていましたがやがて二つの派に分かれて全く異なる主張を繰り広げていました。

一つの派は蘇秦の領袖たちの“合従(がっしょう)派”で、一方の派は張儀を中心とする“連衡(れんこう)派”でした。

合従派は六つの国が同盟して秦国に対抗しようと唱える一派で、連衡派は六つの国がそろって秦国に服従しようとする一派です。

当時、秦国の政客(政治家の食客)であった張儀<sup>2)</sup>が魏国に遊説に行き、魏王と会い、秦国と和を結ぶことを勧めて次のように説得しました。

魏国の地理的条件は国を守るには大変不利です。七国の間に位置しているため、周囲を他の国に囲まれており、これでは戦いになった場合貴国を守る方法がなく致命的な弱点だと思います。貴国がもし南方に位置する楚国と同盟して齊国と同盟しないと、齊国は貴国の東から攻めて来るでしょ

うし、もし齊国と同盟して趙国と同盟しなければ趙国は北から戦いをしかけてくるでしょう。もし韓国と同盟しなければ韓国は西から進攻してくるでしょう。もし楚国と同盟しなければ楚国は南から侵攻してくるでしょう。いまのままでは少しでも油断したらすぐに戦いが始まるでしょう。それでは安全の保障はありません。これが四分五裂の道理です」

張儀の話聞いて、魏王はどうしたら良いか分からなくなり、どうすべきなのかを張儀に尋ねました。張儀は待ってましたとばかりに、この機会に乗じて早速秦との同盟を勧めました。「秦国の力は最も強大ですから、秦国と同盟すれば魏国は安全の保障を得ることが出来るし、諸侯の侵略も防ぐことが出来ます」

張儀の巧みな説得によって、結局魏国は秦国に従属することになったのでした。

## ■注記

- 1) 戦国策(せんごくさく): 戦国時代の遊説の士の言説、国策、献策、その他の逸話を国別に編集し、まとめ上げた書物。もともと『国策』『国事』『事語』『短長』『長書』『修書』といった書物があったが、これを前漢の劉向(紀元前77年~紀元前6年)が33篇の一つの書にまとめた。「戦国時代」という語はこの書に由来する。
- 2) 張儀(ちやうぎ): ?~紀元前309年、中国戦国時代の遊説家、政治家。魏の人。蘇秦と共に縦横家<sup>3)</sup>の代表的人物とされ、秦の宰相として蘇秦の合従策を連衡策で打ち破り、秦の統一に貢献した。
- 3) 縦横家(じゅうおうか、または、しょうおうか): 中国古代の思想家たちで、諸子百家<sup>4)</sup>の一つ。外交の策士として各国の間を行き来した人たちのことである。
- 4) 諸子百家(しよしひゃっか): 中国の春秋戦国時代に現れた学者・学派の総称。「諸子」はもろもろの学者を、「百家」は多くの学派を意味する。

出典: フリー百科事典 ウィキペディア



ろどうひん  
呂洞賓は目覚めてみれば束の間の、自分の未来を  
予見するような夢を見たことで、人の世で立身出世す  
る虚しさを悟り、雲房先生の誘いに応えて仙人になる  
ための修行の道を歩こうと心を決めましたが、雲房先  
生は修行に先立って呂洞賓の心を鍛えようと試練を  
課しました。

或る年の元日、一人の乞食が玄関のところでお布施を求めました。呂洞賓は全てのお金や食べ物などを与えましたが、乞食は満足せず汚い言葉で呂洞賓をどなりちらし始めました。しかし、呂洞賓は意に介さず笑顔で対応していると乞食はやにわに刀を取り出して呂洞賓の胸を刺そうとしました。呂洞賓は上着を開き、「どうぞ、刺してください」と言うと、乞食は突然からからと笑ってどこかへ行っていました。

或る時、呂洞賓は山に羊を放して番をしていると、一匹の大きな虎が現れ、羊に襲いかかって来ました。しかし呂洞賓は全く恐れず虎の前に立ちはだかってすばやく羊を自分の後ろに隠しました。虎は呂洞賓を睨み据えました。しかし、呂洞賓は虎の前に立ちはだかったまま動じません。虎はしばらくすると立ち去って行きました。

また或る夜、呂洞賓が書齋で本を読んでいると、大変美しい女性が入ってきました。その女性は呂洞賓を誘惑しようといろいろ試みましたが呂洞賓は一心不乱本を読み続け、女性の姿は目に入らないようでした。

更に或る時は呂洞賓の家に泥棒が入り何もかも盗まれてしまい、苦しい生活を強いられていました。そんな折、呂洞賓が畑を耕していると、鋤が、埋藏されていた沢山のお金を掘り当てました。しかし、呂洞賓はお金には目もくれずそのまま金を埋めてしまいました。

このようにして、雲房先生は十回の試練を次々に課

して呂洞賓の心を試し、呂洞賓は全てに合格し、弟子として認められることになりました。実は、雲房先生というのは、これから紹介する八仙の中のもう一人の人物である漢鐘離だと言われています。

さて話は変わってその後の言い伝えです。

山西省の南に、極彩色の古い壁画で有名な「永楽宮」があります。この「永楽宮」が造られた当初、工事に使う水は、2キロも離れた黄河まで汲みに行かなければならなかったそうです。その頃、不幸にも疫病が流行っていて労働力が不足し、工事の進行は思うように捗りませんでした。

そのような折、人々は近くの村で泉が湧きその泉の水を飲めば疫病を治す事ができることを伝え聞いてその泉の水を汲みに行きました。ところがこの泉の水を独り占めにしている‘業突く張り’な人間がいて、泉の水を汲むには多額

のお金をこの人間に払わなければなりませんでした。

貧しい人々は泉を目の前にしてもその泉の水を汲むことができず、ただ嘆くばかりでした。と或る日、ぼろぼろの、汚れた衣服を纏った乞食のような老人が現れ、

「水を少し分けてください」

とその欲張りに頼みました。しかし、彼は、

「だめだ。水が欲しければ金を寄こせ！」

と横暴に言い捨てるとどこかに行ってしまいました。

老人は彼が去って行く姿を見ながら眉をしかめ、頭を横に振りながら腰をかがめて手に持っていた缶で泉の水をなみなみと汲むと東の方へ立ち去って行ってしまいました。

老人が去って間もなく、泉から「ごんー」という音が響くと、白い煙が舞い上がり泉の水は見る見るうちに枯れてしまいました。



その“欲張り”が慌てて泉に駆けつけてみると泉の水はすっかり枯れてしまっており、びっくり仰天しとばを発することさえもできませんでした。

見れば近くの壁に

「民の病を治してあげなさい、金を貪って人を苦しめてはいけない、今日は泉水を缶一杯借りたが、永楽鎮で又会おうではないか」【*劝君要为民治病，莫可贪财把人坑，吾今借罐泉水用，永乐镇上再相逢。*】

という詩が残されていました。

それでは「あの乞食めの仕業だ」と気が付いた“欲張り”はすぐ馬に跨ると老人を追いかけて永楽鎮に向かいました。間もなく悠々と歩いている老人の姿が見えてきました。しかし悪人は馬に乗っているというのにどうしても歩いている老人に追いつくことができません。大変長い時間頑張って、どうにかやっと老人のすぐ後ろに来ました。

すると、老人が手に持っていた缶は「ポトン」と地面に落ち、缶の中の泉の水はこぼれて、溪流になり永

楽鎮の方へ向って流れていきました。怒りで頭の中が真っ白になった悪人は乱暴に老人の腕を捕まえようとしましたが、老人は白い雲に乗ってふわふわと地面を離れ、徐徐に空へと浮んで行き、「わしは呂仙じゃ」と高らかに笑う声が空から響いてきました。

「呂仙人だったのか！」

この声を聞いて魂が飛び散るほどに驚いたその‘欲張り’は全てを悟り、慌てて膝を地にひれ伏すと、

「呂仙様！これからは人の為にならないことは絶対しません！これまでのことはどうぞ許してください」

と頭を地面に打ち付けて詫言いました。

そして、缶が落ちたところから泉の水が湧き出るようになり、絶え間なく永楽宮へと流れが続くようになりました。その後、人々の生活用の水も永楽宮建設用の水も遠いところまで汲みに行かないですむようになりました。人々は、綺麗な水を使うことができるようになりますと、疫病に罹ることもなくなり、永楽宮は短い期間で建設できたということです。 (続く)

## アジアを読む(65)

## 憲法とはなにか

櫻井よしこ 小学館

2008年7月号の「中国を読む」に「私たち日本人は世界全体に平和がもたらされることを心から願っていると、少なくとも国の基本方針である憲法に謳っているわけだ。なるほど、いい憲法じゃないか(多少時代に合わない部分が出てきたとしても)。」

と、書いたけれど…。さて、「多少時代に合わない部分」とは、どこでしょう？先に謝っておきます。具体的に説明できないくせに書きました。ごめんなさい。

では、憲法と現実の齟齬はどこか。有名なところで、憲法第九条と自衛隊、「行政権は、内閣に属する」(第六十五条)と官僚制度…とあるけれど、まったく知らなかったことも、本書にたくさんあった。

そのなかのひとつ、私学助成金や国・地方自治体からNPOへ配分されるお金について。憲法第八十七条では、「公の支配に属さない」「教育若しくは博愛の事業」に対し、「公金」の支出を禁じているのに、なぜ配分されているのか？というもの。

アメリカの例を参考に。本書によれば、税金を徴収し国や地方自治体が改めて配分する日本に対

して、アメリカはNPOへの寄付に課税を抑えて、NPOと個人・法人間のお金の行き来を活発にしている。そのためアメリカでは、1年間のNPOへの寄付金の総額が、ざっくり計算して日本の国家予算の4分の1くらいになったとか(1996年)。

でも、アメリカ方式は不況のあおりを思いっきり受けてしまうのでは？(本書は2000年発行)なんて思う一方、日本式は国や地方自治体の人件費など余計な経費がかかっているような気が。お金の配分を決める官僚の力が無駄に大きくなるという、著者の指摘も頷ける。

ほかにも現行憲法にない「環境権」や「知る権利」など、この本を読んでいくと、憲法を考えることで日本の課題が見えてくるのがよく分かる。「改憲」か「護憲」か、の前に、「憲法から見た日本の課題」と「日本の課題から見た憲法」の両方の方向から見直してみる必要があつて…。

で。最近思うのが、受験科目外だった「現代社会」の授業をちゃんと受けておけばよかったということ。三十路過ぎて知らない「基礎知識」の多さよ。はあ。

(真中智子)



1月10日の宿は、田舎の宿がよいと許さん(私の友人)に希望を伝えたら、前号の拙文でふれた「三義木彫博物館」そばの民宿「同心園」を紹介してくれた。周りは畑やたんぼ、その中に民家が点在して、山奥というより都市郊外の山村風景だった。料金は朝食付き二部屋3人で3800台湾元(1万円ちょっと)。こざいいな新しい部屋で、経営者の若夫婦も感じがよい。許さんはこの夫婦と話すときは北京語で話していた。若い世代は北京語を使うようだ。台湾人同士で初対面の場合、最初に何語で話しかけるのだろう。

### ✿台湾人のことば事情

ここで本題から脱線して私なりに理解した、台湾における言葉の歴史を説明する。

清王朝以前に大陸から移住した台湾人「内省人」の多くは福建省方面からの人が多かったので主に福建省の言葉「閩南語」から派生した「台湾語」を使った。1895年、日清戦争で台湾を手中にした日本は、強制的に日本語を使うよう定めた。学校教育を始め日本語が公用語となった。以後50年間、台湾の青少年は教育の場で日本語を習い、父母や、祖父母など家庭での会話は台湾語だった。

1945年、第二次大戦の敗戦とともに日本は台湾から引き揚げた。無政府状態になった台湾に、共産軍に追われた国民党蒋介石軍が大陸から逃げてきて、政権を敷いた。この時期に国民党とともにやってきた資産家など中国本土出身者を「外省人」という。国民党は、台湾も中国の一部でいずれ大陸に戻って政権奪還するといひ、台湾占拠の根拠を主張した。従って言葉も北京語を使うべし、ということで台湾人にとっては異国の言葉、北京語が「国語」になった。すでに成人した台湾の人々が「北京語」を学習するのは大変だったろう。しかし、台湾は正式に中

国に支配されたことはなかった。

時が流れて、大陸奪還は名目だけになり、中国本土の主権は共産党の「中華人民共和国」になった。中国は国民党がいう「台湾は中国の一部」を逆にとり台湾の主権を主張している。

そういった経緯で台湾に住む2300万人の人々は、婚姻関係、学校教育、家庭環境などが複雑に絡んだ言語社会に暮らしている。一昔前の学校教育は、いずれ大陸に戻るときがくるという国民党の考えが反映し、社会科の授業は中国大陸の歴史、地理を学習していた。行政単位も大陸籍の「中華民國」が建前なので自動車のナンバープレートは「台湾省」になっている。他省の車は見たことはないが…。

### ✿台湾鉄道最高点と龍騰断橋

1月11日朝、許さんが助手席に奥さんを従え車で迎えに来た。宿からほど近い鉄道遺跡に案内するという。そこは路線改良で使われなくなった鉄道線路や駅を観光化した名所だ。くねくね曲がる田舎道を10分くらい走ると、目的地に着いた。土手のように見えるのは線路の盛り土で、レンガ造りのトンネル入り口も見えた。

トンネルのきわにある民間の駐車場に車を入れ、土手を登ってトンネル入り口に立つ。総勢5人でトンネルに入り鉄路の先のかまぼこ形に光る開口部を目指して歩いた。案ずることもなく割合にすぐに向こう側へ抜け出た。

トンネル出口から300mくらい先に「勝興」という駅

があり、そこまでポイント装置をよけながら行く。鉄路の周りは畑で、イチゴ栽培のハウスもあった。1998年に路線変更して新線ができてから「勝興駅」は廃止となったが、ホームや駅舎などは保存され史跡となっている。三義付近は客家の人が多く、ここでも客家の土産物屋などがあった。1930年までの駅名は「十六份信號場」で、16軒の家があったということだろうか。



トンネル入り口



鉄道最高点記念碑

勝興駅は台湾鉄道最高点でもあり、海拔402.32mの石碑があった。日本の最高点(小海線)1345.67mに比べるとかなり低いが、台湾の鉄道は高いところを通す必要がなかったのだろう。

最初のトンネルには戻らずに、車道を歩いて山越し、車を駐車したところまで戻った。すぐそばの母屋から小太りの小姐が駐車料金を取りに手品のように現れた。Aさんがこの小姐の衣服から「ヒノキのいい香りがする」といい、この家がヒノキ油精を製造販売している工場と分かった。早速案内してもらい見学。樹木の油精を簡単な蒸留装置で抽出する仕掛けだ。製品はテーブルの上に並べてある。前回に述べた「三義」の木彫の店にも同じ物が売られていたが、こちらは製造元なので純度が良いのではと、みな勝手に思った。近くに置いた樽に抽出済みの木屑のチップがあったが「精」を抜かれてしまったので、香りはしなかった。

種類は台湾ヒノキ油精とクスノキ油精の2種類あり、10ccほどの細い瓶で、ヒノキが100元、クスノキは50元であった。三義で見たときと同じ値段だったが三義のものは「阿里山」と書いてあったので、後で思うと信用できなかった(私は買ってしまったが)。クスノキ油精は三



そのまま残している「勝興」駅のプラットホーム



油精の蒸留装置



「龍騰断橋」、崩れ落ちた橋梁

義には無かった。商談となり、私とAさんは適度に値切って購入し、双方満足して別れた。駐車場料金はタダになった。

次は「龍騰断橋」。1935年に「關刀山大地震」という大地震があり、鉄道の橋梁部がぐずれてしまった。セメントを使わないで、レンガ積みで造った橋は歴史的に価値があるとされ、ここも観光地となっている。「勝興駅」から車で10分くらい。行ってみるときれいに公園化され整っていた。公園の階段で花束を持ったウェディングドレス姿のカップルがポーズを取って立ち、数人の撮影スタッフに囲まれていた。だがこれはモード雑誌のロケではなく、結婚を予定した台湾カップルの記念撮影で、アルバム作りの専門業者が取り仕切っているという。日本人だということは、気恥ずかしくていやだという人が多いと思うが、台湾では当然とされている。同じ日に近くの有名庭園レストランで昼食を摂ったとき、何組かの撮影カップルが雨が降るのに肩を露出して、寒そうにカメラに笑いかけていた。

### ✿映画「五月之戀」

日本へ帰国してし2カ月くらいしてから、BSテレビで「五月の恋」という台湾映画を見た。台湾人気歌手グループの裏方スタッフ阿磊青年と、ハルビンの芸術学校に在学する京劇俳優趙瑄との物語だ。親善公演で台北に来た趙瑄には、国民軍兵として台湾で生涯を終えた祖父がいた。祖父は身重の妻(趙瑄の祖母)をハルビンに残し台湾に来たが大陸へ戻れなくなった。息子(趙瑄の父親)が生まれたことも、妻が亡くなったことも知らず時が過ぎた…。成人した趙瑄は祖父のことを知りたく思い、手紙の住所を頼りに祖父の台湾の妻だった人の家を訪ねる。その場所が「勝興」というわけだ。私は行ったばかりの「勝興駅」が出てくるので、興味深かった。同じトンネルかどうか分らなかったがトンネルを逃げる場面もあった。

映画では、趙瑄は一人で列車に乗り「三義」経由で、「勝興」へ行くつもりだった。しかし列車が通らなくなったの知らない彼女は戸惑う。居合わせた駅員に「勝興」への行き方を尋ねたが、駅員の台湾訛りがひどくて何を言っているのか分からず、仕方なく台北に戻る。

翌日、阿磊に「勝興」への案内を頼む。順調に祖父の家に行ったが台湾の祖父の妻は留守であった。そのうえ空き巣の疑いまでかけられる。夕方台北へ戻ると、趙瑄は別れぎわに当日の夜公演の「京劇」のキップを手渡す。そして必ず見に来るようにと念を押す。この場面では自分が京劇俳優とはいわない。キップを渡された阿磊は券を見て「京劇！」と露骨に迷惑そう。その夜阿磊は仕方なく京劇に行くが観客は年寄りばかり。退屈して公演中ほとんど寝ていたが最後になって彼女が主演の女優だと知る。

翌日二人が会うと、趙瑄がハルビンから来たのを京劇を見て知り「道理で巻き方がきついと思った」という場面がある。このあとふざけて巻き舌を誇張してしゃべる場面や台湾風を強めてしゃべる場面が続く。こういうおかしなところは私には分からなかった。台湾の北京語と、中国東北地方の北京語ではかなり違うのだろう。

台湾と中国で生き別れになった人々が親族訪問を許されたのは1987年になってからであった。台湾は長く続いた戒厳令を解除、同時に中国への親族訪問を解禁した。

今では、中国と台湾は経済的な結びつきが強まり、双方にとってお互いが必要である。しかし、台湾の帰属はのどに刺さった小骨のようにいつまでも解決しない。台湾の人の望むように解決することを願う。 終り

▶ 参考：三義木彫美術館：http://wood.mlc.gov.tw/  
勝興駅紹介：http://www.kunde.org.tw/look-02.htm

## 土の香りのモダンアートⅦ

### 「よりみち・書店」

日本農民画協会 平野 理絵  
http://nouminga.web.fc2.com/

こんなことを耳にしました。街の書店では、NHKの語学テキストは4月号が断トツでよく売れるそうです。

テキストを求める人は“初次”<sup>chūcì</sup>（初めてその語学にチャレンジする人）も多いでしょうが、中にはいろんな理由が生じて途中であきらめていた自分を改め、“重新”<sup>chóngxīn</sup>（再び開始する方）も多いそうです。

かく言う私も前科者。桜の咲くころの書店の、あの華やかに並べられた語学の参考書が目に入ると何か後ろめたい感じがします。

絵の中の学校帰りの子供たちも、何やら参考書の品定め中のようです。

カウンターには四則計算ドリル、ことわざや古文の本、代数の教本がすぐ手にとれるように並んでいます。赤ちゃんをだっこしたお母さんは、「好宝宝」(よい赤ちゃん)というタイトルの本に目がとまっているのでしょうか。

にこやかなお顔の店のおねえさんの後ろには「橋牌」(トランプのブリッジ)、「象棋」(将棋)や「鸡尾酒」(カクテル)の指南書が見えます。「毛泽东传」(毛沢東伝)や「红楼梦」(ハーレクィーンロマンス)は、あんなに高い棚にあるので勝手に立ち読みできませんね。

昨今、街のいたるところにあるので有難みが少々薄らいでいる書店。歩ける範囲にはたった一軒しかなかった、つい寄り道したくなるあの頃の本屋さんが懐かしく思い出されます。



王 阿妮「よりみち・書店」 金山農民画院



ちょうほうえい  
 ♪ 月に一度、趙鳳英さんと楽しく歌っています！ ♪  
 「中国語で歌おう！会」 📞メンバー募集しています

「中国語で歌おう！会」は2004年に活動を始め、以来月に一度、中国の歌や日本の歌、時にはドラマのテーマソングなど取り混ぜて、ご一緒にいるだけで楽しい趙鳳英さんと一緒に中国語で歌ってきました。殿方のお好きな「夜来香」や「君いつ帰る」「蘇州夜曲」などの懐メロ、女性が気軽に口ずさめるテレサテンの明るく可愛らしい歌謡曲などなど数え上げたらきりがありません。

中国語ができなくとも、中国人歌手・趙鳳英さんの丁寧なご指導でどなたでも歌えます。体験は無料ですのでどうぞ、気楽に一度、ご参加してご覧になりませんか。

- ♪ **会場**：まちだ中央公民館 7F・音楽室 1
  - ▲ 横浜線町田駅八王子寄り改札口徒歩2分、小田急線南口徒歩5分
  - ▲ 町田東急裏 109 ファッションビル6F
- ♪ **講座日**：原則として、毎月第2金曜日、又は第3金曜日
  - ▲ 録音機をお持ちの方はご持参下さい。
- ♪ **時間**：19:00～20:30
- ♪ **参加費**：1,500円(一回ごと) 体験参加：無料(初回のみ)

♪ 「中国語で歌おう！会」4月の予定 ♪  
 中国四川省の楽しい民謡の名歌・その②

huái huā jǐ shí kāi  
 〈槐花几时开〉

3月に続けて、四川省の元気が出る楽しい民謡を四川語で歌ってみましょう！

- 4月16日(金) 19:00～20:30  
 まちだ中央公民館 7F・第一音楽室  
 ★5月の講座日は5月21日(金)

\*初めてご参加の方は、体験無料です。会場、日時など‘わんりい’事務局(☎042-734-5100)へ連絡し、ご確認下さい。E-mail: wanli@jcom.home.ne.jpで確認も可能です。

✿ 趙鳳英さんプロフィール

17歳でオペラ歌手として、重慶歌舞団に入団。1974年、推薦により、四川音楽大学声楽部に入学。優秀な成績を認められ、卒業後、大学歌手及び声楽部講師を務める。様々なコンクールの賞を獲得し、四川省「優秀歌手」の名誉を得ている。

1987年、四川省文化訪問団の歌手として来日。その後、日本留学を志し、1992年、広島大学教育学部音楽科入学。広島での国際友好活動に多々参加。2001年秋より町田在住



中国語で歌おう！会四月の指導曲

huái huā jǐ shí kāi  
 槐花几时开

四川民謡

gāo gāoshān shàng yō  
 高高山上(哟)

yī shù ō huái yō wéi  
 一树(喔)槐(哟喂)

shǒu bǎ lán gān shá  
 手把栏杆(啥)

wàng láng lái yō wéi  
 望郎来(哟喂)

niáng wèn nǚ ér ya  
 娘问女儿(呀)

nǐ wàng shá zǐ yō wéi  
 你望(啥子哟喂)

wǒ wàng huái huā shá  
 我望槐花(啥)

jǐ shí kāi yō wéi  
 几时开(哟喂)

歌詞のおおよその意味

若い娘が好きな人待っていると、“何を見ているの？”と母さんに訊かれた。

“いえ、何も見てないよ、このエンジュの花がいつ咲くかなと思っているだけ”と嘘をついた。

無意識に使っている日本人の日本語だけど、日本語を学習している外国の方たちに質問されたらなんと答えますか？「無意思、必然的な帰結」⇨後文に意思がない文・‘と’（仮定）、‘ば’（条件）、‘たら’（未了）日本語指導の現場から 長沙民政学院にて 山口イツ

私は、2008年9月以来、中国で日本語を教えるようになり、現在は、湖南省の長沙民政学院で日本語指導の授業をしています。

春節の休暇で1か月ほど一時帰国していた間、かつて私も参加していた‘わんりい’中国語勉強会に臨時で参加しました。その2月某日、講座メンバーの一人が作文を発表した際、Aさんが『日本人は、仮定の「と」も「たら」も、「ば」も意識しないで使っているよね』と言いました。

中国に戻って、これらの語句を教えることになり、「日本人のみなさんは、何と答えるでしょうか」とお伺いしたくなりました。

普段の日常会話で、私達日本人は何も考えないで使っていますが、‘と’（仮定）、‘ば’（条件）、‘たら’（未了）の語句を含むの微妙なニュアンスの違いについて、日本語上級者の皆さんとご一緒に考えてご覧になりませんか。

1. 質問

‘と’、‘ば’、‘たら’を含むそれぞれの文章にどんなニュアンスの違いがあるだろうか。

1. 例文

- 春になると サクラが咲く。
- 春になれば サクラが咲く。
- 春になったら サクラが咲く。
  
- サクラが咲くと 花見に行く。
- サクラが咲けば 花見に行く。
- サクラが咲いたら 花見に行く。
  
- 20歳になると 酒が飲める。
- 20歳になれば 酒が飲める。
- 20歳になったら 酒が飲める。
  
- 彼は 金があると 飲みに行く。
- 彼は 金があれば 飲みに行く
- 彼は 金があったら 飲みに行く。
  
- 酒を飲むと 酔う。
- 酒を飲めば 酔う。
- 酒を飲んだら 酔う。

- A ; 20歳になると どうなるんですか。
- B ; 20歳になると 選挙権があるし酒も飲める。
- A ; 中国では 18歳に(な )選挙権がある。
- B ; そうですね。
- A ; 日本では 何歳になれば 結婚ができるの？
- B ; 日本では 女は16歳に(な )結婚できる。親の許可があればできる。
- A ; 中国では 男女とも20歳に(なら )結婚できない。
- B ; 日本では 20歳に(な )自由に結婚ができる。

会話2 (日本での会話)

- A ; この前 お酒を買いに行ったら 「身分証明書を見せろ」と言われたの。
- B ; 日本では 20歳に(なら )酒は飲めないからだよ。きっと若く見られたんだよ。

会話3 (日本での会話)

- A ; いっしょに お酒飲む？
- B ; 未成年だから 飲めないよ。今、19歳だから飲めないが 20歳に(な )酒が飲める。
- A ; じゃ、20歳に(なったら) いっしょに飲もうね。

▲たら: 後件に話し手の意思がある。

2. 会話→会話の流れから使い分けを考えて( )の中に適当な言葉を補ってみよう。(中国人Aと日本人Bの日常会話)

会話1 (中国での会話)

- A ; 「成人式」というのは何ですか。
- B ; 20歳になった人の儀式です。

3. 発想の過程を分析しながら、使い分けを考えてみよう。

- と(条件) 20歳になると→どうなる？ (条件課題)→(疑問提示)
- 20歳になると→酒が飲める。選挙権がある、結婚できる。(課題)→(解答)

- あなたは 酒を飲むと →どうなる？
- わたしは 酒を飲むと 気持ちが悪くなる。
- わたしは 酒を飲むと 顔が赤くなる。  
ば(条件) どうなれば(どうすれば) →そのよ  
うになるか、できるか？  
何歳になれば酒が飲めるの？ 20歳になれば  
→酒が飲める。(解答、仮定的条件)→(課題)
- 16歳になれば→結婚できる。
- どうすれば そんなに酔っぱらうの？
- たくさん 酒を飲めば 酔っぱらう。いろい  
ろな酒を飲めば 酔っぱらう。
- お腹がすいているとき飲めば 酔っぱらう。

たら(未了) 想定→仮想→假定、予定  
20歳になったら→ 酒が飲める。→そしたら？  
後件に意志がある例  
1年生になったら(→そしたら?) 友達100人つ  
くろかな。

■参考文献；出典；「基礎日本語辞典」角川書店

#### 4. ニュアンスの違いを考えてみよう。どんなときに どれを使うか。(あなたの個人的な意見は?)

- ①彼は 金があると 飲みに行く。  
暇があると 寝ている。
- ②彼は 金があれば 飲みに行く。

暇があれば 寝ている。  
③彼は 金があったら 飲みに行く。  
暇があったら 寝ている。

#### 5. 参考； 学生が間違いやすい例： 言い換えがで きない場合

- 夜遅く彼が彼女に忠告をします。
- 1人で夜道を行くと、危ないよ。(○)
  - 1人で夜道を行けば、危ないよ。(?×)
  - 1人で夜道を行ったら、危ないよ。(○)

(ほかの用法、注意点については省略しました。  
日本語指導では、例文を基にして誤用を防ぐ  
指導が中心です。これらの構文の「ニュアンス。  
含み」をテーマに、卒業論文が書けそうです。)

#### 使用済み古切手と書き損じの葉書でご支援を！

日本スリランカ文化交流協会では、スリランカへの教育支援の為、使用済み古切手と書き損じの葉書を集めています。日本の切手、外国の切手など、周りを1cmほど残して切り取り、おついでに折に「わりい」の事務局にお届けくださるか、田井にお渡し下さい。

### 松本杏花さんの俳句「余情残心」より

行く春や石の階段摩滅せり

xūn fēng lüè mùchūn  
熏风掠暮春

shíjiē bù jué wǎng lái rén  
石阶不绝往来人

měiměi zài mó sùn  
每每在磨损

赏析：江南春来早、而北国之春则姗姗来迟、待到暮春才达到最佳境界。那时不热不冷、游人如云、正因为如此、才把游览胜地的石阶磨损了。

此句没写纷至沓来的游人、而是以磨耗的石阶来说明踏春者众、以静写动、寓意深刻、寥寥几笔、便将喧闹的北国之春描写得活灵活现、可见作者的取舍能力之高深。

足竦む眼下長城かぎろひて

dēnggāo tuī fā ruǎn  
登高腿发软

yǎnxià chángchéng wò jùn luán  
眼下长城卧峻峦

qīng zhuān qǐ yáng yán  
青砖起阳炎

季语：阳炎、春。日语“阳炎”即水蒸气在阳光照耀下折射出的犹如火焰一样的晃动虚影。这种现象多在夏季出现。但始见于春末、便约定成俗的成为春天的季语了。

赏析：作者攀登的大概是八达岭吧！登高俯观、眼下是蜿蜒的长城、还有那虚晃晃的阳炎、作者不禁腿颤抖了。是因为恐高、还是惧怕那火苗似的阳炎、抑或其他、令人揣度。此句犹如一幅墨彩稀疏的图画、给读者留下遐想的空间。

今年の2月下旬頃、ケニアからの電話で、夫の叔父さんがいなくなったとの連絡があった。叔父さんというのは、夫のお母さんの妹の連れ合いである。私がケニアで仕事をしていた時、なんどか不意に叔母さんの家を訪ねてはいつも長居をした。居心地よく心温まる家庭だった。つまりその家の「お父さん」がいなくなったのだ。

叔父さんの住むOthya(オザヤ)村は、ナイロビを北上すること車で2時間くらいのキクユ族の村である。当時は直行バスが出ていなかったため、ナイロビからニエリという町まで行って、そこで小さなバスに乗り換えてオザヤまで行き、その後更に乗り合いタクシーに乗って叔父さんの家のある村まで行くのだ。待ち時間を含めると実に4～5時間はかかり、文字通り近くて遠い村といえた。

オザヤ村は、現大統領のムワイ・キバキの故郷として有名で、ケニアで有数の紅茶の産地だ。叔父さんの家はその紅茶用のお茶を栽培する農家で、茶畑を望む高台にあり、家の庭から山の側面を利用して茶畑が続いている。その茶畑を見ていると、その広がり的美しさは息を呑むばかりだ。きらきらと眩しく輝く太陽の下、青々と伸びる紅茶の芽。ケニアでは珍しい涼しい風が時折吹き抜ける。これらのどれもが合わさってアフリカの大地の豊かさと感じさせてくれた。

叔父さんは本業は大工で、仕事があると数日間は家には戻らず家や建物の建築に携わり、一方家族と一緒に茶を栽培する典型的な農村生活をしてきた。育ち盛りの子供が3人いる。家族思いの叔父さんが自分で建てた家に住み、そこから仕事で出かけ、子供を学校に通わせ、家族と一緒に畑を守るという昔ながらのキクユ族の生活を大事に守り続けていた。そんな叔父さんが、突然、出掛けたきり戻らないというのだ。

ケニアの学校の多くは、旧植民地の宗主国であったイギリスの教育システムを取り入れたままである。新学期は9月から始まる。9月～12月、1月～3月、4月～7月の3学期制で、学費はそれぞれの学期が始まる前に、まとめて納めるのが一般的だ。行方が知れなくなったその日、叔父さんは、4月から始まる分の学費が足りなくて親戚に借りに出かけていった。そして音信不通になる直前の電話で「足りないお金は親戚から借りることが出来た」と伝えてき

たそうだ。

叔父さんがオザヤ村から他の地域に出かけた形跡はなく、地元ですっといたことはその後の警察の調べで分かった。しかし、どこのだれに会っていたのかは分からなかったという。

連絡が取れなくなって数日後、親戚の多くがオザヤ村に集まり、警察に捜査を依頼し、ラジオ・新聞の行方不明欄に記事を書き、子供たちの学費は親戚の募金で集めた。ケニアでは18歳になると国に申請して身分証明書としてIDカードを発行してもらえる。が、叔父さんはそれも自宅に置いたままだったそうで他人に身分を証明するものはなく、最悪の場合も親戚は考えた。電話口でお金が手に入ったと口にした叔父さん。その会話を聞いた誰かが「お金目当て」ということもケニアでは十分に考えられることだ。親戚たちは、叔父さんの家族には内緒で病院や警察の遺体安置所も歩いて調べて回ったとのことだ。

普段の仕事は、何度頼んでもゆっくりペースだが、家族や親族のこととなると素早く団結し、協力し合う様子を聞いてすっかり感心した。仕事が速い! 本当は出来るではないか! と思いつつ、家族の繋がりの強さをとても羨ましく思った。

「あなたと子供たちの将来は、地域と親戚の大人たちが責任を持って面倒を見ます」と、親戚の代表が残された叔父さん家族に伝えたという。そしてこれまで通りに紅茶畑で仕事するように助言し、親戚の女性たちはしばらく叔父さんの家で、残された家族と生活を共にした。子供達は、親戚達が代わりに支払った学費で4月からも継続して学校へ通う。

ケニアにいた折、突然訪ねても「おかえり。よく来たね、私の娘」といって笑ってくれた叔父さん。「アフリカを知りたいなら、農村だよ。全部みんなと一緒にやってみればいいよ」と、紅茶畑に籠を背負って行った。一緒に新芽を選んで収穫し、それを背負って地域のセンターに行き、紅茶の工場のトラックが来るのを農家の人たちと一緒に待ち、それを計量し、積みこんでもらう。そのキ口数でお金を受け取った。

その後、最寄りの紅茶工場にも連れて行ってくれた。Iriaini tea factory(イリアイニ紅茶工場)では、本当は従業員以外入れないところを、叔父さんは「ケニアの経済を研究している研究者だから」といって紹介してくれた。工場の隅々まで一緒に回り、緑の

葉っぱが紅茶になっていく過程を共に見学した。

「君のおかげで、紅茶になる過程を全部見ることが出来たよ。農家は卸すだけだからね。いやあ、勉強になった」

と逆に感謝してくれた。

急速に発展していくケニア経済の中であって、農村での家族の暮らしを大切なものとしてずうっと守り続けてきた叔父さんだった。

比較的結婚するのが早いケニアの男性達だが、叔父さんは30代後半になってやっと結婚した。選んだ女性は私の夫の叔母さん、キクユの村の中でも一番笑い声が大きくて、体も大きい豪快なアフリカンママだった。彼女のいるところではいつもあたりに笑い声が響き渡り、家族の間でも笑いが絶えなかった。その彼女は、今、声を出すのがやったださうだ。

「家族がいて、生活があって、ここにいて、私、幸せなのよ」といつも私に笑顔で語っていた叔母の顔を思い出す。

ケニア人の男性と結婚し、新しく親戚になったケニアの人々の行動を、遠い日本で伝え聞き胸を痛めている。私にも出来ることが何かないだろうか考える。叔父さん、帰ってきて！



お茶畑で 叔父さん(右)と夫



叔父さんの家族と私(中央)、私の向って右はお隣の家の娘



### ……ケニア風・春野菜をたっぷり使った牛肉のシチュウは如何？……



2005年にアフリカンコネクションの竹田さんとガスバルさんに教えて頂いたケニアの牛肉のシチュウは、田井の家に受け継がれ、田井家の「四季折々の野菜たっぷりケニア風牛肉シチュウ」に変わりつつあります。

暖かくなって春野菜が出回ってきましたね。今夜のメインメニューはこの春野菜を使いましょうか。竹田さん、ゴメンなさい。オリジナルとはだいぶ変わってしまったかも。

#### 【材料】(4、5人分)

牛肉500g/玉葱中1個/トマト中2個/人参中2本/新キャベツ半個/新ジャガイモ 小ぶり人数分の個数/菜の花半束/香菜半束/生姜親指大/ニンニク2片/サラダ油/塩/胡椒

(好みや季節によって、香菜、トマトはなくともよい)

#### 【準備】

①牛肉:2cm角に切り薄く塩と胡椒を振っておく ②玉葱:荒みじん切り ③トマト:2、3cm角切り ④人参:全部すりおろす ⑤生姜・香菜:みじん切り ⑥ニンニク:押しつぶして細かく切る ⑦キャベツ、菜の花:手で適宜にちぎる ⑧ジャガイモ:皮付きのまま切らずに7、8割がたゆでてそのままおく。

#### 【作り方】

①鍋を熱し、サラダ油大匙2程度(流れる程度)を入れ、玉ねぎを色づく程度に炒める。ニンニク、生姜、肉を加え、肉の表面の色が変わるまでしっかり炒め、更にトマト、人

参を加えて炒める。

②トマトが煮崩れるまでいためたら、塩を適量加えてしばらく炒めてから深鍋に移し、水カップ4を加えて中火に掛ける。香菜の根を入れて煮立ったら弱火にしてゆっくり煮込む。(ここまでがシチュウのベースになる。牛肉の質によって煮込む時間が変わる。煮立ったら毛布などで鍋を包んでおけばエコにもなるし、出掛けることもできる。高価な肉でなくとも良い)

③(仕上げ) ②の鍋を火に掛け煮立ったら、キャベツを2回に分けて鍋に入れ、キャベツの量が落ち着いたら、ジャガイモの皮を剥いて加える。中火よりやや弱い火で30分くらい煮る。スープが少なければ水を適宜加える。キャベツが柔らかくなり、ジャガイモも完全に火が通ったら塩加減を整え、食べる直前に菜の花(ブロッコリーやサヤエンドウでも良い)など青みの野菜を加えてさっとひと煮立ちさせて皿に取り分け微塵の香菜を掛けて頂く。(田井)

#### 【‘わりい’の原稿を募集しています】

原則として、2月と8月を除く毎月発行の会報‘わりい’は、会員の皆さんの原稿でまとめられています。体験された楽しい話、アジア各地で見聞した面白い話などなど気楽にお寄せいただければと願っています。

\*紙面の都合上、掲載までお待ち頂くことがあります。また、作者のご了解の上、余儀なく手を入れたり、カットさせて頂いたりすることもあります。

今回はスリランカでユネスコに登録されている世界遺産の話をしてします。

スリランカは北海道の80%程度の国土面積しかない小さな島国ですが、この狭い国土に2009年現在で7件の世界遺産が登録されています。この数が多いか少ないかということ、例えば2009年現在アジアで最も登録件数が多いのは中国で38件、次に多いのはインドの27件です。

この2カ国は飛び抜けて国土面積が広いし黄河文明、インダス文明に代表される文化と長い歴史があるので登録件数が多いのは当然の事でしょう。日本はどうかというと14件が登録されています。因みにお隣の韓国は9件とスリランカとほぼ同じ位の件数です。スリランカと同じく小乗仏教を信仰するタイでは5件しか登録されていません。この様にアジア各国の登録件数と比較してみるとスリランカで7件が登録されている事は多い方だと言えるでしょう。

スリランカで登録されている世界遺産を登録年順に挙げると、

- 1982年  
聖地アヌラダプラ、古代都市ポロンナルワと古代都市シーギリヤの3件
- 1988年  
シンハラジャ森林保護区、聖地キャンディとゴールの旧市街地・城壁の3件
- 1991年  
ダンブーラ石窟寺院

の合計7件で、この中でシンハラジャだけが自然遺産として登録され、他の6件は文化遺産として登録されています。又、シンハラジャとゴール以外の5件は仏教に関係する遺産です。

現在でもジャングルに埋まっている遺跡の発掘が日本のNGOを含めて各国の手によって続けられているので、新たな世界遺産クラスの遺跡が見つかる可能性があります。昨年まではLTTE(タミル・イーラム解放のトラ、英: Liberation Tiger of Tamil Eelam)との紛争が続き、ジャングルではゲリラ戦が繰り広げられていたのに、同じジャングル内では発掘作業が続けられていたと云うのがスリランカらしいところです。

これからスリランカの「世界遺産」を紹介するに当たって「わんりい」に2006年から連載させて戴いている中で、シーギリヤについては何度も紹介してきていますのでシーギリヤの紹介は簡単にして他の6件を重点的



に紹介する事にしますが、個々の世界遺産を紹介する前に「文化の三角地帯」と呼ばれる地域の説明をしなければなりません。

スリランカ北部から中央高原地帯にかけて立地するアヌラダプラ、ポロンナルワとキャンディの3都市を結ぶ三角地帯を文化の三角地帯と呼びます。(上に掲載の地図を参照ください)

この三角形にはシーギリヤとダンブーラが含まれているので、世界遺産のうち仏教関係の物は全てこの三角地帯にあります。更に、世界遺産には登録されてはいませんが同等の価値を持つ仏教遺跡が三角地帯の内外には多数残されています。

紀元前247年にスリランカに最初に仏教が伝えられたと云われるミヒンタレー遺跡は20世紀初頭に発掘されるまで深いジャングルで眠っていました。同じくジャングルの中でひっそりと佇んでいたリディガラ遺跡はアヌラダプラと同じ時期に拓かれたと考えられていますが詳しい事は判っていません、今後の発掘調査が待たれています。

5世紀に建立された当時の姿のままに高さ約11.5mの石仏像が残るアウカナ遺跡は間近で見ると大きさに

圧倒されます。‘わんりい’ 2006年11月号で紹介した僕の大好きなヤープフワ遺跡。8世紀ごろにスリランカのほぼ中心に建てられたナーランダ遺跡はどのようにして測量してスリランカを中心に割り出したのか不思議です。

13世紀末から48年間だけ王朝のあったクルネガラ、今でもクルネガラの町の中心にはエレファントロックとよばれ、頂上に王宮のあったと言われる、象の形をした岩山がそびえています。因みにクルネガラは町田に住んでいるシリーヘラットさんの故郷です。

この三角地帯には他にも数多くの仏教遺跡が存在します。これらの遺跡は紀元前4世紀頃にアヌラダプーラに最初の王朝が築かれた後、インドからの侵攻によって徐々に北部から南下し、最後の王朝がキャンディで1815年にイギリスによって滅ぼされるまでに各王朝が築いた仏教遺跡です。

各王朝は遷都の毎に寺院と貯水池を作るのが常でした。其々の王朝はその場所を終の棲家として寺院を中心にして都市を築いたのでしょうが、殆どの王朝が短命で終わり追い立てられる様に次の場所へと移って行きました。施政者としての象徴である寺院と貯水池を築く事無くその地を離れなければならなかった王もいました、さぞかし無念だった事でしょう。

例えば、ヤープフワ王朝は僅か12年しかこの場所で王朝を維持する事が出来ませんでした。ここでも岩山の頂上に宮殿を築き、麓に寺院を造った途端に遷都せざるをえなくなったようで、貯水池を造る時間はありませんでした。尚、貯水池については本誌2008年12月号で紹介しているので参照下さい。

王朝が移った後の宮殿と寺院はどうなったのでしょうか？ インドからの侵攻、即ちヒンドゥー教徒による侵攻です。宮殿は破壊されましたが、寺院は不思議な事に破壊されずに、仏教僧侶の修行の場として残りました。ジャングルに埋もれた遺跡もありますが、多くの寺院は地元の仏教徒の心の拠り所として在り続けました。

それにしても歴史は皮肉な物です。インドからの侵攻による逃避行の結果が、観光資源として今後のスリランカを救う事になるかもしれないからです。

さて、他国の世界遺産を見ると現在は遺跡として存在するだけの場所が多くありますが、スリランカの世界遺産(特に文化遺産)は現在でも寺院として修行の場であり、祈りの場所である事が特徴と言えるでしょう。

私はこれまで便宜上、“遺産”と呼んできましたが、スリランカでは現在も人々の生活と密着した“生きている遺産”なのです。次回からは個々の世界遺産を紹介する事にします。(続く)

## 今年も、あさおサークル祭が近づいています

麻生市民館利用団体によるあさお市民館サークル連絡会が毎年、5月第4週の週末2日間、恒例で開催のサークル祭は、麻生市民館全館を使った盛り沢山のプログラムがいっぱいです。今年は5月29日(土)と30日(日)で、‘わんりい’の参加プログラムは、

### ① TOKYO 万馬-馬頭琴アンサンブル演奏会

29日(土) 14:30 ~ 16:00

於：大会議室参加無料

TOKYO 万馬-馬頭琴アンサンブルは、今年も5月上旬、モンゴル国の首都ウランバートル市で開催の「国際馬頭琴フェスティバル」に参加・出演します。その為の練習を積んだ演奏力を現地で披露直後の、腕に磨きの掛かった演奏会です。ご期待ください。

### ② 日本/農民画協会・平野理絵さんによる

「中国の民間芸術・農民画/スライドとお話で紹介」  
30日(日) 14:00 ~ 15:30

於：視聴覚室 参加無料

昨年10月に、町田市民フォーラムで、中国の農民達の手になる農民画を初めてご紹介頂きました。参加された皆様は、それぞれの作品の鮮やかな色彩や描かれた中国の民衆の生活を描いた絵画を平野さんの説明によって楽しみました。あさおサークル祭ではどのような作品を紹介いただけるのでしょうか。

‘わんりい’ おたより会員の皆様、そして  
入会をご希望される皆様へ

毎年4月から新年度になります。

おたより会費の納入をよろしく願います。

年会費：1500円 入会金なし

郵便局振替口座：0180-5-134011 ‘わんりい’

‘わんりい’の名は、‘万里’の中国読みから付けられました。文化は万里につながるの想いからです。

主としてアジア各地から日本にいらっしゃってる方々と協力し、講座、研究会、鑑賞会、展覧会等の開催など文化的交流を通して国や民族を超えた友好を深めたいと願っています。また、2月と8月を除いて年10回、会報‘わんりい’を発行し、情報の交換に努めています。

▲入会はいつでも歓迎しています。

▲活動の様子は、おたより又は‘わんりい’HPでご覧ください。問合せ：042-734-5100(事務局)

目が覚めると真っ暗だった。一瞬何処にいるのか判らなかったが、そこは亜丁村で泊まっていた宿の座敷牢のように窓の無い部屋の中なのだった。

穴倉から這い出すような気分で表に出ると太陽はすでに空高く昇り、昨夜の雨はすっかり晴れあがって穏やかなお天気だ。久しぶりに何の予定もないのんびりとした朝だ。宿のおじさんをお願いして何本かの魔法瓶にためてあったお湯をもらい、庭先で5日ぶりに髪を洗った。

この辺りの地方では頻繁に入浴する習慣は無いので村人達もそれなりの容姿であったし、高度が高いため気温が低く空気も乾いていて、何日も入浴していない事も然程苦痛ではなかったが、毎日の登山で汗をかき、廃屋で眠り、ホコリにまみれた頭に雨が当たって数本の束に固まりかけていた髪の毛が再びサラサラに戻るのなんて気持ちがいいんだろう。

髪を洗った後、お湯に浸したタオルで身体を拭いてすっかりサッパリとした気分になり、濡れた髪を太陽の光に当てて乾かしながらのんびりしていると、慌ただしかった昨日一日の出来事がまるでまぼろしのよう思えてくる。

庭先で作業していた宿の主人が「もうすぐホーフウが来るから見にいくと良いよ」と声をかけてくれた。

ホーフウって何だろう？

言葉で尋ねてもなんだか良く判らなかったので、手帳とペンを渡し漢字で書いてもらおうと主人はそこに「活佛」と書きこんだ。なるほど～！ 生き仏!! それは行ってみなくっちゃ!!

宿の敷地を出て村の目抜き通りに行ってみると、道路の両脇には既に大勢の村人達が群がっていた。男衆は働きに出ているのか、その場に集まっているのは主に老婆や女達と子供達だったが、手に手にお金やお菓子やお米や麦の穂や、その他色々なお供え物を携えて活佛が来るのを待っていた。この地方の「活佛」ってどんなものだろう。

生き仏といえば、私にとっては初めての外国であるネパールで「クマリ」と呼ばれる少女の生き神様を見た事がある。神となる者として様々な条件を満たし、ヒンドゥー教の儀式に則って選び出された幼い少女は、クマリと呼ばれる生き神様となり、人々から絶大な信仰を集め、国王でさえその足元に跪くのだという。通常は館に閉じこもって暮らしているためクマリがその姿を人に見せる事はめったに無いが、1年に1度行われる大祭「インドラ・ジャトラ」の祭りの時だけは山

車に乗って町中を練り歩く。

クマリの姿を見た者には幸せが訪れるといわれ、私がネパールを訪れていた祭りの日、人々は一目クマリの姿を見ようと、その姿を求めて沿道を埋め尽くし熱狂していたものだった。

その日の亜丁村の様子は特に祭り事が行われている雰囲気ではなかったし、村が小さい為に集まっている人数もそれなりだったが、その場に集まっている村人達の熱気は十分に伝わってきて私も何が起こるのかとワクワクした気分になっていた。

そんな時である。活佛はなかなか来なかったが、皆が活佛の訪れを待っている道の向こうから、これから亜丁自然保護区に向かうのであろう西洋人観光客を乗せた車が数台、砂埃をあげながらやって来た。沿道に集まっていた亜丁村の女性達の多くは伝統的なチベット服を纏っており、そんな村人が手に手にお供えをもって道路に集結している姿は観光客にとって、さぞ絶好の被写体であったのだろう。西洋人達は大喜びで歓声を上げ、それぞれ車から身を乗り出すようにして、バシャバシャと写真を撮りまくりながらホコリを巻き上げ走り去って行った。彼らにとっては思いがけずに出会った興味深い村の風景となるのだろうが、私は走り去った車の残した砂埃にむせながらすっかり嫌な気分だった。

「ふん!! 見世物じゃないよ!」

だが改めて思い直せば、私は間違いなく写真を撮りまくりながら走り去っていった西洋人達と同じ立場なのだ。まったく己の自分勝手さには呆れてしまう。だが、自分がここの村人であったなら・・・と想像すれば、金銭欲を別にしても村人達があのようによくやるよそ者に対し、少しでも金を取ってやろうという気持ちになってくるのが理解できるような気がした。

そんな事を思っているうちにいよいよ本物の活佛達がやってきた。

「活佛」という言葉と、信仰心の深い村人達の待ち焦がれる様子から、私はネパールの祭りでクマリの山車が街を練り歩いていた時のように、宗教上の行列が鐘や太鼓などを鳴らしながらやってきて、お付の者に傘など差し掛けられながら托鉢の鉢を抱えた高僧が厳かに歩いてくるような情景を想像していたのだが、待ちに待った活佛は先程の西洋人達と同じ様に、やはり数台の自動車に乗り砂埃を巻き上げながらやってきた



のだった。

車の中に座っている僧侶達は、私の目にはどうも生き仏というよりは普通のお坊さんに見えたが、村人達は熱狂して車に押し寄せた。しかし活佛達の目的はあきらかに亜丁村には無い様子で、車に群がる村人を振り払うように車は走り過ぎて行ってしまった。

窓に駆けよる村人に申し訳のように活佛が差し出した手にお供えを渡せた幸運な者はごく僅かで、車の窓から強引にお供えを投げ込む者もいたが、活佛達は元々そんな村人達のささやかなお供え者には興味が無いようで、私が見たところではどうもありがた迷惑な様子なのだ。車に群がる村人達を蹴散らすように村を通り抜けた活佛達が、まったく通行の邪魔だと苦笑しあっている様子が目に浮かんだ。私の隣にいた老婆は、大事に捧げ持っていたお米を渡すこともできず、呆けたような顔をしてその場に立ち尽くしていたが、じきに肩を落として家に戻っていった。

あの活佛達は何処からやってきたのだろうか？ 恰幅も良く裕福そうな雰囲気伝わってきたところをみるとどこか有名なお寺の僧侶なのだろうが、今のご時世でお坊さんが儲かるのは日本もチベットも変わらないようだ。亜丁村など人が集まっているといってもたかが知れた人数だ。こんなに信仰して待っている村人達のために、せめて形だけでもお布施を受け取りその者に功德が得られるようなおまじないでもかけてあげて欲しかった。

活佛達の車がすべて走り去ってしまうと、それまで集まっていた村人達も三々五々散ってしまい、活気づいていた村は閑散とした様子になってしまった。私もちょっぴり拍子抜けしたような気分になったが、それでも村人達の信仰心の厚さをこのような形で垣間見る事ができたのは興味深く良い経験だ。

急に手持ちぶさたな気分になってしまった私は、とりあえず亜丁村を散歩する事にした。昨日は村に着いてすぐに少年に出会ってしまったので村の様子はまだ殆ど見ていない。

亜丁村はなだらかな山の斜面に畑を作り、数少ない民家が寄り添いあって建っているだけの小さな村だ。石作りの民家や黄金色に麦の波打つ畑を見ながら村の中央を突っ切って走っている道路を登ってゆくと丁度村はずれにあたる斜面の中腹に大きな石があり、その場所から村全体を見下ろす事ができた。いったい何軒家が在るんだろうと村の上空からざっと数えてみても、建物の数はせいぜい20軒程だった。正面の上空には雲がかかっていたが、きっとこの雲が晴れていれ

ば、村を見下ろすようにドーンと万年雪を頂く神の山、仙乃日がそびえている筈だ。

もし、私がこの村の住人だったら、何か悲しい事があった時はきっとここに登ってきて泣くんだろうな……。そんな事を思いながら、今度は今まで登ってきた道を逆に下り始めた。すぐに私の泊まっている宿の前に辿り着き、その前を素通りしてもう少し下れば昨日訪れた少年の家だ。彼の家は殆ど村のはずれにあり、その下には小学校があって村は終わりだった。村の端から端まで歩いて、あつという間だ。

子供達が小さな自転車で遊んでいたのも仲間に入ろうと「私にもやらせて!!」と自転車に跨り坂を下ると、ブレーキが壊れかけていてでけっこう怖い。「きゃー!!」と声を上げながら坂道を自転車で転がり降りて戻ってくると、小さな子供達が口々に「1元だよ、1元」とお金をせがんでくるのにはビックリした。

あーあー、まったくこの村は!! 辟易した気分の子供達を振り切り宿まで戻ると、何だかもうやる事が無い。宿にいても仕方が無いので再び散歩に出ると先程は気付かなかった、おみやげ物屋のような店を見つけた。亜丁を訪れる旅行者はその殆どが亜丁村を素通りして自然保護区まで行ってしまふ筈だ。訪れる観光客も少ないこんな小さな村で商売が成り立つのだろうか？

店の中には手作りのアクセサリーとアンティークな装飾品と見られる品物が並べられていた。亜丁村に来られた記念に何か購入しても良いなと思い商品を眺めてみたが、どうも買いたくなるような品物は見つからない。しばらく見ていると奥から若い男性が出てきて声をかけて来た。

暇を持て余していた私はこれ幸いと話し相手が見つかった喜びを態度に表すと、話相手が欲しかったのは私だけではなかったらしく、青年に椅子に座るように勧められた。低い声でつぶやくように喋る少し変わった雰囲気のこの青年は、亜丁の人間では無いそうで、自身を漂泊の旅人のようなものであると私に告げると、私が村人達との筆談用にと手に持っていた手帳を取りあげ、空いているページに自己紹介のような文章を端正な字で書き記してみせた。余白には『オン マ ニベ ネ ホン』というチベット族の祈りの言葉が美しくデザインされたチベット文字で書き入れられている。

店の中に飾ってあるいくつかのチベット仏教にちなんだデザイン画も彼の作品だそうで、青年はこのような僻地で出会うことは珍しい芸術家肌の人間のような。あなたはどこの土地の人なの？ あなたの名前は？ 何故この土地に来たの？

彼は私の質問に口頭では答えようとはせずに、いち

いち私の手帳を取り上げては書き記していった。

- ・ 我的家：雲南省 麗江 瀘沽湖(摩梭人)
- ・ 我的名字：給真二車(ゲイティン・アールチャー)
- ・ 我来四川巫丁的理由：
  - 1、高い山が好きだから
  - 2、骨董を集めるのが好きだから
  - 3、旅が好きだから
  - 4、生存

彼はチベット民族では無いそうで、主に雲南省に居住地を定める摩梭人(モーソー人)という民族の人間なのだそうだ。彼の話では巫丁は生活の為に滞在しているがこの村の人間とはあまり馴染んでいないようだった。

「そういえば、君はカメラを持ってないのか？」

暫く話しているうちに青年がふと私に尋ねた。

「私のカメラはこれだから」

私が自分の目を指差して見せると、青年はハツとした様子で言った。

「どうやら君はオレと同じ種類の人間らしい」

だが私は内心、今回程カメラを持っていなかったことを悔いていた旅はなかった。

これまで何度か一人で旅行はしたが、風景写真などはいざ知らず、これ程多くの友人との出会いと別れを繰り返した旅は初めてだ。人の記憶はいつしか薄れてしまうものだし、この旅行記を記している今となっては、すっかりおぼろげになってしまった友人達の顔を再び眺めたいとつくづく思う。しかし、この一件により彼の私に対する評価はにわかにならなくなった。

「実はオレはガイドもするんだ。もし君が望むなら世界で最も美しい場所の一つである雲南省の麗江、瀘沽湖に案内するが、一緒にいかないか？」

なんて魅惑的な誘いだらう・・・熱心な誘い文句には心を動かされたし、時間とお金が許すものならこのまま彼にヒョコヒョコ着いて行って、世界で最も美しい場所の一つへ訪れて見たいものだが、残念な事に時間もお金にもそれ程余裕が無かったし、どうもこれは新手のナンパなのではないかという気もし始めて、そろそろ彼の店からはおいとますことにした。

来る者は拒まず、去る者は追わず、泰然自若といった雰囲気の人に別れを告げると、今度はその向かい側にある、村で一軒だけと見られる雑貨屋に入った。店の中には飲料水とお菓子とほんの少しの生活雑貨、その他にホコリにまみれた洋服や帽子などが数点と写真集の様なものが置いてあった。私は旅の消耗品であるトイレットペーパーとコーラを買った。

目的は買い物ではなく暇つぶしなので、コーラを飲

みながら雑貨屋の商品を眺め店の主人と話していると、突然店の親父が言った

「君の歳はいくつなんだ!？」

「は・・・?」(何故雑貨屋の親父にこんな事聞かれなきゃならないの?)

「何でこんな所を女一人でフラフラしてる!？」

「は・・・?」(旅行なんだけど)

「あんたは見たところもう30にはなっているだろう。何故結婚して落ち着かない!?!」「この村の女にお前のような事をしてる奴はいない。大人になったら結婚して子供を生み、家族を作って生活するもんだ!!いつまでもそんな事していて、歳を取ったら誰がお前の面倒を見てくれる?」

どうも話の雲行きからすると、私は雑貨屋の親父にお説教されているらしかった。雑貨屋の店主にとっては私のような女が明確な目的も無く一人で外国を旅しているなんてこと自体が許しがたいらしい。勝手に30過ぎの独身女だと決め付けられているが、僻村の雑貨屋で思いがけず投げ付けられた店の親父の言葉は私の胸に強く刺さるものがあった。いくら歳を重ねても、どこか地に足の着かない感覚をずっと抱え持ったまま生きている私は、いつだってこのように大地にがっしりと足を付けて生活を営んでいる人達に対する劣等感のようなものを心の奥底に抱え持っていたのだ。

これが日本人の年配者から言われたものなら、まだ「あなたは私とは考え方が別だから・・・」などと冷笑を返す事もできただろう。だがこのような中国の山奥の僻村で、故郷に根を張って暮らす生粋の生活者のような村人からそのような言葉を言われると、もう返す言葉も見つからず、「はい。仰るとおりです」と頭を下げたいような気持ちになってしまうのだ。思わず虚を突かれ一本取られた感じの私だったが、親父の次の言葉には思わずムツとしながら苦笑してしまった。

「お前も早く国に帰って結婚しろ!! この村じゃ30過ぎた女なんて誰も要らないぞ!」

確かめもせず勝手に独身者だと決め付けられているし、余計なお世話である。その時、村の子供が店にコーラを買いに来た。「3元だ」店の親父の言葉に子供がお金を払って出て行くと、私は親父に反撃した。

「ちょっと～!! さっき私が買った時は5元だったじゃない!!」

親父は苦笑いしながらも胸を張って言った。

「お前は外国人だからな。こんな旅行がしてられる金持ちなんだから当然だろう?」

巫丁村の雑貨屋の親父との勝負は、どうやら私の完敗なのだった。

続く

チ・ブルグド& TOKYO万馬-馬頭琴アンサンブル  
馬頭琴コンサート

演奏：チ・ブルグド TOKYO万馬-馬頭琴アンサンブル  
(西郷美炎子、高木和恵、永瀬正博、池谷禎俊) ピアノ：則岡徹

2010年4月18日(日) 19:00開演(18:30開場)

目黒パーシモン・小ホール(200席)

東急東横線の都立大学駅下車、徒歩7分

〒152-0023 東京都目黒区八雲 1-1-1 03-5701-2924

●チケット:3000円 ●問合せ:090-6036-4820(永瀬)

主催：JAZZ SONORE、TOKYO万馬-馬頭琴アンサンブル

【演奏予定曲】 回想曲(チ・ボラグ作曲)/最後の鷹(西郷美炎子作曲)/ロマンス(アルタンホイグ作曲)/リベルタンゴ(A・ピアソラ作曲)など 美炎子ソロ、チ・ブルグド ソロを含む

「チ・ブルグド& TOKYO万馬・馬頭琴アンサンブル」は、5月上旬、モンゴル国の首都ウランバートル市で開催の「国際馬頭琴フェスティバル」に参加・出演、現地で高い評価を得、期待されている演奏力を披露します。

チ・ブルグド& MIHO/馬頭琴コンサート

ゲスト演奏：TOKYO万馬-馬頭琴アンサンブル  
ピアノ：則岡徹

2010年4月24日(土) 19:30～(19:00開場)

千葉市美浜文化ホール(152席)

J R京葉線 検見川浜駅より徒歩8分

〒261-0011 千葉市美浜区真砂5152

●チケット：3,500円  
問合せ&チケットの申込み:☎090-6036-4820(永瀬)



伸びやかな声の魅力、オペラ歌手崔宗宝  
ミニコンサート in 可喜庵

2010年4月24日(土) 15:45～

場所：鶴川の古民家・可喜庵 参加費：1,300円

\*可喜庵は小田急線沿い(柿生～鶴川)の鈴木工務店の敷地内に建つ茅葺屋根の古民家です。

東京都町田市能ヶ谷町740

小田急線「鶴川駅」下車、北口より東(新宿方面)へ徒歩8分。

世田谷通り沿い鈴木工務店敷地内 ☎042-735-5771(鈴木工務店)

◆コンサートプログラム(予定)

- 日本の歌  
平城山 初恋 城ヶ島の雨 鐘が鳴ります 千の風になって
- 中国の歌  
草原情歌 故郷の月 万里の長城 長江の流れ など

◆崔宗宝 オペラ歌手(バリトン)92年来日。東京芸大修士課程終了。日本各地で精力的な活動を続け、伸びやかで張りのある歌声で聴衆を魅了している。



●申込み&問合せ：  
(社)町田市観光コンベンション協会  
☎042-724-1951

【4月の定例会と5月号のおたより発送予定日】

- ・定例会：4月12日(月) 13:30～
- ・おたより発送：4月28日(水) 14:00～
- ・場所は共に田井宅です。

\*活動の計画や準備の打ち合わせなど楽しく相談しています。会員は、どなたでも参加できます。

Chinese Farmer Painting Exhibition



四季折々の風景を描いた農民画50点を紹介

色彩の村里 ～中国農民画展～

2010年3月10日(水)～4月9日(金)

10:00～16:00 (日祝休館)

場所：東京中国文化センター

〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-5-1 37森ビル1F

◆銀座線「虎ノ門」駅2番出口を出て、そのまま桜田通りを直進。3つ目の信号「虎ノ門3丁目」右手に見える「37森ビル」1F・徒歩7分

◆日比谷線「神谷町」駅4番出口より徒歩5分

※東京中国文化センターは、海外に派遣された中国政府の文化機構として、2009年12月14日に開所され、中国文化の紹介と、中日文化交流の促進事業を展開しています。

問合せ：☎03-6402-8168  
東京中国文化センター



●農民画ミニレクチャー

農民画の成り立ちや絵の楽しみ方など

4月3日(土) 13:30～(約30分)

場所：上記展覧会会場

講師：平野理絵(日本/農民画協会)

第4回 いどのえにし 弦之縁フレンドリーコンサート

姜小青 心に響く古筝の調べ ♪

<http://homepage3.nifty.com/jiang/>

共演：馬平 (打楽器・中国木琴) 海老原真二 (キーボード)

ゲスト：中国の歌姫・エンレイ

- 4,000円 (前売) ● 4,500円 (当日)

日時：2010年5月8日(土) 14:00開演 (13:30開場)

会場：大田区民ホール アプリコ小ホール ☎03-5744-1600

<http://www.city.ota.tokyo.jp/shisetsu/hall/aprico/index.html>

大田区蒲田5-37-3 蒲田駅東口徒歩3分

【予定演目】

風のように～ニューバージョン～、開元宵、童神、夜来香、シルクロード、ファイヤークラッカー 他

- 主催：姜小青フレンドリーコンサート実行委員会
- お問い合わせ：080-1304-7347 (村山)

日本と中国オペラ会の2大スターの歌声が心に響く  
ソプラノ/森麻季 (日本)& テノール/戴玉強 (中国)

夢幻のジョイントコンサート付き  
北京3泊4日ツアー

● 期 日：2010年10月7日(木)～10月10日(日)

● 参加費：成田発88,800円 羽田発：98,800円  
(北京飯店3泊室料、6回の食事、5つの世界遺産観光及びコンサートチケット)

● ゲスト：崔宗順 (バス/米国在住)、崔宗宝 (バリトン/日本在住)、川井綾子 (ピアノ)

【予定の日程】

- ▶ 1日目：成田or羽田発 13:50～19:30  
北京着 16:50～22:55 北京泊  
食事=機内食
- ▶ 2日目：北京滞在 ①北京郊外観光 or ②天津観光  
食事=朝・昼・夕  
①世界遺産・万里の長城(八達嶺)/世界遺産・明の十三陵/世界遺産・頤和園/北京オリンピックスタジアム(鳥の巣)/ウォーターキューブ(水立方)/ショッピング等  
②租界時代の洋館の街並みが残る天津観光  
古文化街/天后宮/南市食品街/水上公園/周恩来記念館/ショッピング等(参加:2,000円UP)
- ▶ 3日目：北京滞在 食事=朝・昼・夕  
北京市内観光、天安門広場/世界遺産・故宮博物院&天壇公園 昼食=(刀削麺料理)、中国茶芸体験、夜=国家大劇院にてジョイントコンサートに参加
- ▶ 4日目：空路帰国の途へ 食事=機内食  
北京発 08:25～11:15  
成田 or 羽田着 12:50～15:30

主催：中国国家大劇院 (北京)

企画：崔宗宝音楽事務所

申込 & 問合せ：(株)HIS 045-317-3631 (川上/内海)

‘わんりい’会員・平島克子さん油絵展  
～「臥薪嘗胆」の地を訪ねて～

● 期日：2010年4月20日(火)～25日(日)  
11:00～18:00(最終日:16:00迄)

● 会場：ギャラリーJ (小田急線町田駅北口徒歩3分)  
☎042-724-3039

▶ 平島克子略歴：

1964早大卒業/1984～2000.二紀展出品、二紀展奨励賞受賞/2000.多摩秀作美術展入選/2001.「日・仏・中現代美術世界展入選(北京)/2006.世界堂絵画大賞展入選

【展覧会に寄せる平島克子さんの思い】

中国春秋時代の末(ほぼ孔子が生きた時代)に、呉国と越国は20年余りにもわたって繰り返しの戦い、“呉越の戦い”として知られている。

両国は、ほぼ同族の国とも考えられ、地形などから似通った生活環境、共通の習慣もあったはずの両国である。しかも両国は僅か160kmほどしか離れていないのだ。なぜ「臥薪」嘗胆してまで相手を打倒したいと憎しみを増殖させたのだろう。

長く続く戦争の中の極限の激しい生き方や心の底から絞り出すように吐き出された言葉、そして戦いの後の人々の生き様など、この戦いの影響は地域や国を越えて、2500年を経た今も人々の口に上るほどだ。

今回の展覧会では、テーマを二つに分け

①戦いに関わった「夫差」、「勾踐」、「伍子胥」、「范蠡」、「西施」、「文種」を描いた。

②昨年4月に訪れた、今の江南地方の風景や人々を描いた。

又上記とは別に中国の文物(周代の青銅器、秦代の兵馬俑、唐三彩etc)を描いて展示し、これらの作品の売上げの半分は、度々訪れている陝西省の博物館に寄付したいと思っている。

是非、ご高覧下さいまして皆様のご意見など伺わせて頂きますようお願いしています。(平島克子)

ギャラリーJ案内図

